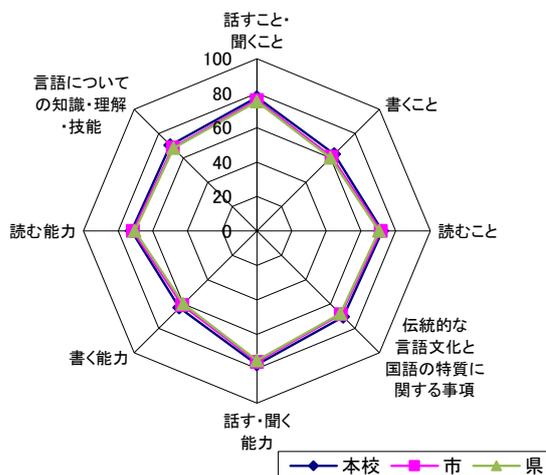


宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.6	76.0	75.2
	書くこと	63.1	60.9	59.9
	読むこと	72.3	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.5	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	77.6	76.0	75.2
	書く能力	63.1	60.9	59.9
	読む能力	72.3	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	70.5	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
話すこと・聞くこと	○正答率は県・市に比べ、それぞれ2.4、1.6ポイント上回っている。 ●「分かりやすく伝えるために話の構成を考える」設問では県・市の平均よりも2ポイント程度下回った。	・問題意識を持って相手の話を聞いたり、聞き取ったことを踏まえて自分の考えを述べたりする力を養うため、日頃からグループでの話し合い活動を積極的に取り入れた。 ・スピーチやプレゼンテーションの学習では、発問やワークシートを工夫し、事実と意見を区別したり、聞き手の反応を予想したりしながら分かりやすく印象的に話す力を育
書くこと	○正答率は県・市に比べ、それぞれ3.2、2.2ポイント上回っている。 ●「メモを基に、活動報告書にあてはまる言葉を書く」設問では県・市の平均よりもおよそ1.5ポイント下回った。	・「書く」ことに苦手意識を持っている生徒が多いので、物語のあらましや登場人物の心情をまとめるなど、授業の中で短文を書く機会を増やし、文章を書くことに慣れさせたい。また、原稿用紙の正しい書き方も身に付いていない生徒もいるため、「書く」学習の際には丁寧な添削を心がけ、力を伸ばしていきたい。
読むこと	○正答率は県・市に比べ、1～2ポイント程度上回っている。 ●全体的に県・市の平均と同等か上回っているものの、得点できている層と、得点できていない層との2極化が顕著である。特に、「文学作品の内容の理解」での「物語の展開や表現について自分の考えをもつ」設問では68.0ポイントの差が見られた。	・説明的文章では指示語や接続語等に、文学作品では場面の展開や心情を映し出す描写等に着目させ、論旨を正確に読み取ったり、登場人物の心情を読み深めたりする力を育てていきたい。 ・朝の読書活動や本の紹介を通して文学的文章に多く触れる機会をつくることで、読むことに対する関心・意欲を高め、課題に意欲的に取り組む姿勢を育みたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は県・市に比べ、2.0ポイント以上上回っており、特に「漢字の成り立ち」「熟語の組み立て」の設問では5.8～8.7ポイント上回っている。 ●漢字の書き「会議の司会をツトめる」の正答率が、県・市の平均と比べて、それぞれ4.0、7.1ポイント低く、「旅行の計画をメンミツに立てる」は、県・市の平均を上回っているものの、正答率は18.7と低い。	・授業中に辞書の活用を意識して行い、漢字や語句についての知識を広げさせる。また、漢字学習用のプリントを用意し、読み書きの練習をさせるとともに、その漢字を使った文章を作る学習にも継続して取り組ませ、実際に使える形で身につけさせたい。

レーダーチャート表示用タイトル
話すこと・ 聞くこと
書くこと
読むこと
伝統的な 言語文化と 国語の特質に 関する事項
話す・聞く 能力
書く能力
読む能力

言語について
の知識・理解
・技能